



紫芳会だより ～輝く先輩達～

No.44

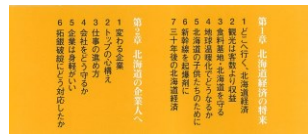
2016.4.1.発行

札幌商工会議所 会頭
北洋銀行 相談役

高向 巖 氏 (高校9期)

- 1962年 東京外国語大学中国語科卒業 日本銀行入行
- 1967年 コロンビア大学大学院経済学修士課程修了
- 1991年 日本銀行情報サービス局長
- 1993年 北洋銀行入り
- 2000年 北洋銀行頭取
- 2004年 札幌商工会議所会頭(現在に至る)

== 私のキャリア ==



著書『北海道経済の針路』

立川高校生の皆さん、こんにちは。紫芳会のご依頼で私の経歴を書いてみます。

私は立川高校生のときに英語に興味を持ち、英語部に入りました。英語劇をしたり、外部のスピーチコンテストに出たりしていました。

語学力が役に立って、東京外国語大学に進学し、その当時はまだ人気のなかった中国語を専攻に選びました。卒業するときには、商社マンにでもなろうかと思っていましたが、日本銀行から中国要員の求人が来て、それに応じて入行してしまいました。

銀行ですから、経済学が必要になります。上司から激励されて米国政府の奨学金制度に応募して、ニューヨークのコロンビア大学に行き、経済学の修士号(MA)を取りました。そしてその経験が役に立って国際機関のIMFへ出向しました。ワシントンで4年間英語で仕事をし、多少自信が付きました。

帰国したら、日中国交正常化があり、すぐ北京に行かされました。文化大革命の厳しい時代でした。そのあと香港に勤務し、チャイナ・スクールらしい仕事をしました。

一般に、銀行員は支店長になることが1つの目標なのですが、私も幸いにしてまず小規模の大分に行き、次に中規模の札幌へ行きました。バブル華やかな頃でした。そのあと本店で局長を務め、しかるべき年齢になったので、日銀を退職することとなりました。

その時、たまたま札幌の北洋銀行から求人があり、これも天命かと思い、第二の人生を札幌で始めました。北洋銀行は小さな銀行でしたが、バブル崩壊の過程で統合が進み、思いがけずも北海道で一番大きい銀行になってしまいました。私はいま銀行の仕事を卒業して、経済界のお世話役としての札幌商工会議所の会頭をつとめています。

振り返ってみると、いわば運命の命ずるがままに人生を生きて今日に至っています。もともとは中国問題の専門家でしたが、次に金融の専門家になり、最後は地方経済の専門家になっています。特別に仕組んだわけではなく、こうなってしまうました。長い人生には、時々チャンスがありました。そのチャンスを与えてくれた上司や先輩の恩をいま思いかえしています。